

文部科学省後援で開催されるアジア最大の GPU テクノロジーイベント GTC Japan 2016 と同時開催

<Emerging Company Summit 2016 Tokyo>において

広告新商品開発室のビジネスプロデューサーがデモンストレーションを実施

～AI を活用した技術 Seed を応用した新サービス開発事例を紹介～

2016 年 10 月 5 日（水） 15：20～16：20 ヒルトン東京お台場

株式会社 博報堂アイ・スタジオ（本社、東京都千代田区、代表取締役社長：平林 誠一、以下 博報堂アイ・スタジオ）が新設した、IoT や新テクノロジーを広告ビジネス化する組織「広告新商品開発室」は、ビジュアル・コンピューティングテクノロジーの世界的リーダー企業である、NVIDIA（エヌビディア）が開催するアジア最大の GPU テクノロジーイベント「Emerging Company Summit 2016 Tokyo」のコーヒープレイクにてデモンストレーションを実施いたします。

Emerging Company Summit 2016 Tokyo はアジア最大の GPU テクノロジーイベント GTC Japan 2016 の一環として開催される、ビジネスデベロップメントにフォーカスしたイベントで、GPU を活用する驚くべき未公開企業のショウケースです。

「広告新商品開発室」からは、最先端技術を応用した新商品開発のビジネスプロデューサー江頭宏和と山本武志が、AI を活用した技術 Seed に広告発想を掛け合わせ、ビジネス化へ手掛けてきた事例の紹介を交えながら当社の技術 Seed への取り組み・連携についてご案内致します。

【登壇セッション概要】（15：20～16：20 の部）

<テーマ>

AI 技術を活用した技術 Seed から新サービス創出の取り組みのご紹介

<概要>

博報堂アイ・スタジオが技術 Seed を抱えている企業様を対象に最先端技術に「広告発想」を掛け合わせビジネスレイヤーに転化させる取り組みについてこれまで事例を交えながらご案内します。

<発表者>

「広告新商品開発室」ビジネスプロデューサー 山本武志、江頭宏和

【イベント概要】

名称：Emerging Company Summit 2016 Tokyo

日程：2016 年 10 月 5 日（水） 13:10～18:00

場所：ヒルトン東京お台場

イベント公式ページ：<http://www.gputechconf.jp/emerging-companies-summit.html>

主催：エヌビディア合同会社

■「広告新商品開発室」について

「広告新商品開発室」は、広告クリエイティブ発想で、IoTや新テクノロジーを広告ビジネス化する博報堂アイ・スタジオのビジネス開発組織です。

様々なテクノロジーを組み合わせたIoTプラットフォームを構築し、クライアント企業の課題に合わせた「広告クリエイティブ発想」を掛け合わせることで、生活者に新しい体験をもたらす「広告新商品」を開発してまいります。 (new-ad.tokyo)

<主なメンバー>

沖本 哲哉 (博報堂アイ・スタジオ)
須田 和博 (博報堂)
鷹嘴 愛郎 (博報堂)
望月 重太郎 (博報堂アイ・スタジオ)
公文 悠人 (博報堂アイ・スタジオ)
山本 武志 (博報堂アイ・スタジオ)
江頭 宏和 (博報堂アイ・スタジオ)
山本 恭裕 (博報堂アイ・スタジオ)

広告新商品開発室

<広告新商品開発室ロゴ>

■博報堂アイ・スタジオについて

株式会社博報堂アイ・スタジオは、クライアント企業のWebサイト、プロモーションサイト、キャンペーンサイトの企画制作とそのコンサルティング、それに伴うシステム開発、公開後のPDCAマネジメントから多言語対応まで、一貫したトータルサポートを高クオリティでご提供しています。さらに、中国やASEAN諸国のクライアント企業へのサポートも同様に行っています。

また、近年普及がめざましいスマートデバイス向けのサービス開発やアプリ制作をはじめ、ネット動画マーケティング、SNS、O2O、クラウドサービスといった領域でのソリューション提供にも積極的に取り組んでいます。

—— 会社概要 ——

【社名】 株式会社博報堂アイ・スタジオ
【所在地】 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1丁目10番1号 有楽町ビルディング5階
【URL】 <http://www.i-studio.co.jp/>
【広報Fb】 <https://www.facebook.com/hakuhodoistudio.pr>
【代表者】 代表取締役社長 平林 誠一
【設立年月】 2000年6月
【資本金】 2億6,000万円
【事業内容】 インタラクティブ・クリエイティブ業務、システム開発業務、CRM業務

以上